

報告書

出張日程

年月日	出張先	用務
自 令和 7 年 11 月 5 日	新発田市	行政視察
至 令和 7 年 11 月 7 日	津南町	

令和 7 年 11 月 14 日

報告者

職氏名

川南町議会議員

中瀬 修



報告事項 (1.経過 2.感想並びに意見)

1. 経過

11/5(水)5:40町役場出発⇒6:30宮崎空港着⇒伊丹空港⇒新潟空港⇒(レンタカー移動)14:15新発田市役所⇒17:40新発田第1ホテル着

11/6(木)8:30宿舎出発⇒東北自動車道⇒14:20津南町役場 16:30⇒ホテル法華倶楽部新潟長岡着

11/7(金)8:30宿舎出発⇒東北自動車道⇒新潟空港⇒伊丹空港 ⇒宮崎空港⇒18:00町役場着

2. 感想並びに意見

1日目 新潟県新発田市教育委員会視察調査

【内容】市立小・中学校の望ましい教育環境に関する基本方針、紫雲寺地域統合小学校検討委員会だよりの資料から説明を受けた。

【状況内容】学校統合の当初目標は、令和3年4月を目指したが、一部の保護者の反対表明により延期された。

【延期の理由】2校統合案では、大義名分である「1学年2クラス」の望ましい教育環境が実現できないと判断されたようだ。目標達成の困難さを痛感した瞬間でもあったとのことである。

【統合再開の要因】

一番の要因は、人口動態から複式学級の発生が確実に became ことで、該当する保護者が敏感に反応された。

公共交通の転換（路線バスの減便など）で通学支援の見直しが必要になったことも要因と捉えられていた。これら以外にも、切実な問題が顕在化し、保護者の意識が統合反対から賛成へ変化しはじめたようだ。

【再開後の対応】

教育委員会では、令和4年4月に統合再開を決定し、保護者・地域代表と100回以上の協議を実施し、アンケートで理解を確認されたとのことである。大小さまざまな会にも顔を出し、膝を突き合わせ、粘り強い対話による合意形成を目指したそうである。

【反対意見への対応】

スクールバスや複式学級の不安解消に注力を行い、特に地域のキーパーソン（リーダー）へのアプローチを行ったことが効果的だったそうである。それが、地域住民の納得と理解に繋がる重要なポイントとなっていたようである。要するに、当初は「望ましい教育環境の確保」という大義名分が十分に満たせず反対で延期されたものの、その後少子化（複式学級化）と交通問題という切実な現実が顕在化したことで状況が変わり、行政が重点的な対話とキーパーソンへの働きかけを行うことで統合の合意形成に至った経緯を説明された。

【統合の検討体制と付随事項】

小規模校検討委員会を設置後、次に開校準備協議会を立ち上げられた。準備協議会では、学校の位置決定や施設活用などを具体的に検討したようだ。通学支援では、通学距離が長くなる児童生徒を対象に、市が基本的に支援を実施していったようである。具体的な支援方法は、スクールバス等の運用を軸に検討に入ったそうである。教育の質を担保するために、教職員の事前研修や児童同士の事前交流を数多く実施し、統合後のスムーズな移行と安心を確保していった報告があった。子ども達の教育は、統合によって大規模化で多様な学習環境を創出し、地域活動においては、施設活用統合後も地域行事の継続を図りながらこれまでの活動を継続しているようだ。廃校施設や体育館・グラウンド等は、避難所指定など地域活用を検討し、廃校施設の活用法が統合後の課題として残っているとのことであった。

2日目：新潟県津南町

報告内容：地域農業の現状とスマート農業導入への取り組み概況

1. 津南町農業の現状

○地理的制約：山間部で冬期間（11月下旬から）が長く、農業に制約がある。

○主要産品：園芸・畜産（アスパラガス、リンゴ、野菜、花き）と水田稲作。

○構造変化：専業農家は減少し、集約化・大規模経営化が進行。若手は法人化し担い手として活動。

2.津南町の農業の課題

- 経営：野菜価格の変動により安定した経営が困難。
- 労働：冬期間の長さを克服するための労力・コストが大きい（雪中野菜の掘り出し等）。
- 後継者：新規就農者が近年伸び悩んでいる。
- 集落営農：地理的条件の悪い水田の受託が多く、経常経費が上回る傾向にある。

3. 特色ある取り組み

- 雪中野菜：雪の下で貯蔵・熟成させる栽培技術を推進（ハウス建設費を10%補助）。
- 施設整備：令和6年度から水田に環境制御システムの一部（水式の延長管）を導入予定。

4. スマート農業実証プロジェクト

○概要

- ・目的：高齢化と人手不足が進む中での経営効率化、省力化。
- ・実施内容：令和2～4年度にニーズ調査と機器導入の試行調査を実施。

○特定課題

ICTの普及：設備投資

水稻管理の省力化：普及には時間を要する。

ハウス環境管理：施設資材の高騰。

鳥獣害対策：熊、猪、鹿、猿等

5. 導入機器

遠隔自動給水栓、水位/水温/環境センサー、監視カメラ、無線基地局（LPWA）を導入。

6. 効果と課題

- 効果：現場に行かずにデータ確認・遠隔操作が可能となり、作業負担を軽減。
- 課題：通信エリア（電波が届かない場所がある）、コスト高（農家負担が大きい）、監視カメラの機能制限（静止画のみ対応）が残る。

7. 意見交換（まとめ）

まず、スマート農業の導入は、データの共有により作業者の負担軽減と若手への技術継承に有効との報告があった。特に、施設園芸のユリ農家では、施設内の管理に高評価のようである。次に、鳥獣害対策は、現状のセンサーでは不十分との報告があった。熊や猪などが罠にかかった際に、通知が届くシステムであり、予防的・生体検知への応用的な部分是对应できていないとのことであった。スマート農業の導入は、データの共有により作業者の労働軽減とデータの一元管理を実現したようである。技術の革新により将来につながる持続可能な経営のひとつのアイテムになればと感じた。

報告書

出張日程

年月日	出張先	用務
自 令和7年11月 5日	新潟県 新発田市	令和7年度文教産業常任委員会
至 令和7年11月 7日	津南町	行政視察

令和 7 年 11 月 14 日

報告者

職氏名 川南町議会議員 今井 孝一



報告事項 (1. 経過 2. 感想並びに意見)

1 経過

令和7年11月5日～ 同 6日 新潟県内 行政視察

① 新発田市 市役所 (小学校統合までの経緯・取組について)

② 中魚沼郡津南町役場 (LPWA 技術等を活用したスマート農業の取組について)

2 感想並びに意見

① 新発田市の概況および小学校統合までの経緯・取組について

人口 91,088 人 世帯数 37,693 世帯 面積 533 平方キロメートル

平成の大合併を経て現在に至る 市内に6校の高等学校を持ち

小学校 24 校のうち適正規模 7 校に対し、小規模 12 校 (6～11 学級)、過小規模 5 校 (1～5 学級) と 1 学年 1 学級以下が 70.8% を占めていた。

「新発田市立小・中学校の望ましい教育環境に関する基本方針」を平成 23 年に策定し

望ましい学校規模としてクラス替えができる1学年2学級以上、1学級は20人以上
中学校区については小学校区の再編に一定のめどがついた時点で検討することとした
★ 直近の状況（取り組んだ結果 視察時点）
小学校数 13（うち6学校は統合校完了 4校は統合せず 全体で新設・増築改修済）
中学校数 10
学区の再編実施には相当強い信念をもって継続してあらゆる機会を用いることが重要
説明会以外の集落単位、各行事 PTA・保護者会、学級行事などにターゲットを絞り
土日昼夜を選ばずに実施したが、結果として複数学年のクラス編成が差し迫らないと
理解が深まらないケースが多かった。粘り強く実施するしかないことを学んだとのこと。
市の合併の際に遺恨を生んだ先が一部でまとまらなかったがそれ以外では再編が進んだ
再編が決定したら児童の関係構築の機会を事前に実施して児童・保護者の不安解消等に努めたとのこと。
また、再編の際の用地・建物は各地区の諸条件に合わせて対応し、合併特例債も積極的に活用したが、増築、リフォーム工事対応も並行して選択した。またスクールバスの活用も賛成する条件として大きかった。
児童・生徒数の減少傾向は続くともみているが、望ましい学校規模にむけた取組を今後も継続して実施するとのことであった。
② 津南町（LPWA 技術等を活用したスマート農業の取組について
（中魚沼郡）津南町の概況
人口 8,989人 世帯数 3,282世帯 面積 170平方キロメートル
農用地 3,228ha（ 田 1,986ha 畑 1,242ha ） 林野 10,934ha
販売額 稲作 1,917百万円 畑作 1,296百万円 畜産 869百万円 林産 37百万円
円
主要野菜 スイートコーン アスパラガス 春秋ニンジン キャベツ 野沢菜

報 告 書

出張日程

年 月 日	出 張 先	用 務
自 R7 年 11 月 5 日	新潟県 新発田市	川南町議会 文教産業常任委員会
至 R7 年 11 月 7 日	新潟県 津南町	行政視察

令和 7 年 11 月 12 日

報告者 職 氏 名 川南町議会議員 北 原 輝 隆



報告事項 (1. 経過 2. 感想並びに意見)

1. 経過

・ 11 月 5 日 5 : 40 川南町役場出発 (車→宮崎空港→伊丹空港→新潟空港→車)

〃 15 : 30 新発田市役所にて

新発田市における小学校統合までの経緯・取組について

(説明)新発田市教育委員会教育総務課

〃 17 : 30 ホテル着 (新発田市役所→車)

・ 11 月 6 日 9 : 00 ホテル発 (車)

〃 14 : 30 津南町役場にて

LPWA 技術を活用したスマート農業の取組について

(説明)津南町役場農林振興課

〃 18 : 30 ホテル着 (津南町役場→車)

・ 11 月 6 日 8 : 30 ホテル出発 (車→新潟空港→伊丹空港→宮崎空港→車)

〃 16 : 30 川南町役場着

2. 感想並びに意見

1) 新発田市の小学校統合の経緯・取組について

平成20年以降、18の小学校を6つの小学校に統合する計画を起し、令和3年度までに15の小学校を5つの小学校に統合してきた。残り3校については、平成31年1月の時点で、意向調査の結果から「統合反対」の意見が大勢を占める結果となった。その後検討委員会を組織し令和3年4月開校を目標に検討・協議を進めてきたが、保護者の一部から反対表明が出され合意形成が成されなかった。令和2年3月に、統合については当面延期することを決定した。

令和3年7月に、対象地区の住民に対して、新発田市教育委員会から児童数の減少に伴う複式学級の可能性と地域公共交通と通学支援を分けて考える（スクールバスの運用）ことをお知らせし、再度意向調査を実施した結果、PTAと保護者会が市が進める統合に向けた話し合いに積極的に参加する意向が示され、統合協議の再開が決定した。その後は、3つの各小学校の保護者代表、自治会代表との意見交換や、3小学校区合同の会議体設立（保護者/自治体党の代表、学校、市教委等で構成）、統合目標年度の設定及び準備スケジュールの策定等、100回を超える会議を経て、令和7年4月に新小学校の統合を実現した。

統合についての意見合意が成されなくても、諦めることなく、刻々と変わる状況の説明を行い、なぜ統合が必要なのかを訴え続けた新発田市教育委員会等の関係者の皆様のご苦勞に頭が下がる思いである。強い心を持って誠意を持って相對することで、保護者の皆さんに思いが伝わったものとする。川南町の2つの中学校統合、新中学校建設については、多くの町民の皆様が賛成の意向を示してくださっている。この状況を鑑みると、町民の意向として計画を前に進めることが大切であるとする。

2) 津南町のLPWA技術等を活用したスマート農業の取組について

R2年度から、町単独での「スマート農業加速化補助金」や「農業用ドローン操作免許取得補助金」等を設け、ロボットトラクターの導入をはじめとするスマート農業の普及を目指した取組を進めてきた津南町である。ロボットトラクターの導入については、津南町の立地条件から（地形的に電波が届かないなどの不都合あり）導入がなかなか進まない状況とのことで、ビニルハウスでの花卉栽培や稲作でのLPWA技術を活用した取組に特に効果が見られるようである。

LPWA技術等の活用では、5つの技術を導入し、検証中とのことで、①LPWA基地

局の設置、②水田圃場の水位監視、③ため池監視、④鳥獣害対策、⑤ハウスのセンシングが行われている。どれをとっても、農作業の省力化に貢献できる技術で地域の期待の大きいようである。また、今後については、LoRaWANの基地局を町内4カ所に設置し、津南町内を広範囲に低コストでマルチユースケース利用のできるネットワーク構成の実現が可能になり、さらなる効果を模索している。

今後は、センサー等の利活用を更に推進し、①水田センサー・自動給水装置の全町普及、②百合栽培ハウスのセンシングによる栽培マニュアル作成、品質平準化を目指しながら新規就農者支援を実施する、③鳥獣害対策への利用拡大、④ため池の監視用センサー・カメラの利用拡大、⑤農業分野以外（防災分野、福祉分野、観光分野）での活用拡大し、ニーズに合ったICT機器を利用することでのさらなる事業効果を模索等、更なるスマート農業の推進及び住民の生活面におけるICT機器活用促進を図られるようである。

川南町でも、ハウス栽培におけるICT機器活用や養豚農家・酪農や肥育牛・繁殖牛農家での分娩時の監視機器としての活用、水田の水管理等技術導入等、スマート農業の導入機会は多くあるのではないかと考える。

報告書

出張日程

年月日	出張先	用務
自 令和7年11月 5日 至 令和7年11月 7日	新潟県 新発田市 津南町	令和7年度文教産業常任委員会 行政視察

令和 7 年 11 月 13 日

報告者

職氏名 川南町議会議員

沙藤京武 

報告事項 (1. 経過 2. 感想並びに意見)

1 経過

1日 「小学校の統合までの経緯」取組について

(15:30 ~ 17:10) 新発田市市役所

2日 「LPWA技術等を活用したスマート

農業の取組について

(14:30 ~ 16:00)

津南町農林振興課

2 感想並びに意見

新発田市の視察の件は統合に至るまで

住民への説明は平日をうけてなく休日や

夜間など住民が来やすい時間帯に丁寧

に行われていたサービスの整備、今後 複式学級に
なっていく事など 学校の便りを活用した
浸透 していた。 集落が望む用は 地域の
行事等には 今も子供達は 対応しており 不安
を取り 除いて いた。 統合に向けて 対象となる
子供達や 先生方の 交流の場も 設けて いた。
それにおよ 地域コミュニティにも まったく変化も
見られなかった という お話でした。

これはあくまで 小学区の話で 中学生に 与える 人間
性が テリトリー 存在を 慎重に 進めたい方 が 良
い でしょう と お話 頂 きました。

LPWA技術等を 活用した スマート農業の 取組
に ついては 広範囲・省電力の 特性を 持
つ LPWAを 活用し 水田センサー・自動給水
装置等を 設置し 省力化を 目指して いた。

アプリケーションの 活用で いっども 水温、水位
開閉 状況 を 確認 する 操作 結果を いっども
見せる 用 になって いた。

ハウスセンシングについては 温度、湿度、日射量
日射強度、ハウスの 開閉 状態 等を 自動で 収集
し カブラカ の 生育に 影響を 与える データ
を 蓄積し 技術 ノウハウを 伝承して 行
く と言う 事 でした。 ハウスセンシングも アプリケー
ションで 動作を 確認 出来 省力化に 貢献 して いた。

今後は農業分野以外にも活用できるため
防災・福祉・観光などの活用も今後指
引で行くという事でした。

報告書

出張日程

年 月 日	出 張 先	用 務
自令和7年11月5日 至令和7年11月7日	新潟県新発田市 〃 中魚沼郡津南町	令和7年度文教産業常任委員会 行政調査

令和7年11月12日

報 告 者

職氏名 徳弘美津子



報告事項(1. 経過、 2. 感想並びに意見)

1. 経過

11/5・・・宮崎空港⇒伊丹空港⇒新潟空港⇒新潟駅⇒新発田市研修⇒新発田市泊
 11/6・・・新発田市発⇒津南町研修⇒長岡市宿泊
 11/7・・・長岡市発⇒新潟空港⇒伊丹空港⇒宮崎空港⇒帰町

1 日目(11月5日)新潟県新発田市・・・人口90,754人(令和7年10月)

- 1. 視察の目的**・・・少子化の進展に伴う学校の小規模化への対応は、全国の自治体にとって重要な行政課題である。本委員会では、新発田市における「紫雲寺地域3小学校の統合」に関する議論の経緯、保護者・地域住民の合意形成プロセス、および統合に向けた具体的な取り組みについて行政調査を行い、今後の教育施策検討に資することを目的とする。
- 2. 視察内容の概要**・・・新発田市では、平成20年9月に設置された「新発田市教育制度等検討委員会」の報告(平成21年5月)を受けて、「新発田市立小・中学校の望ましい教育環境に関する基本方針」を平成22年3月に策定した。
- 3.**
 - (1) 学校統合の経緯と課題
 - (2) 「反対」から「賛成」への転換に向けた取り組み
 - (3) 統合に向けた再始動と決定
 - (4) 統合後の教育・通学支援 を学んだ。

感想

新発田市における学校統合の取り組みは、当初の「反対」意見から時間をかけて地域住民や保護者の「賛成」を勝ち取り、統合決定に至った点で、合意形成のプロセスの重要性を強く示していると感じました。

川南町では、新設候補地選定（ふるさと公園の利用、役場周辺への集約）や、既存施設（ふるさと公園の憩いの場）の喪失、長寿命化改修と比較した建設費の増大に伴う町民負担増大といった複合的な要因から、一部で根深い反対意見があります。新発田市は「反対理由の具体的な打開策」を講じることで合意形成を達成しましたが、本町のケースでは「学校新設を望む声」がアンケートで過半数を上回るという明確な大義があります。これは、「子どもたちにとって望ましい教育環境の整備」という本質的な目的への町民の理解が広いことを示していると考えられます。反対意見は、場所や財政面に関する「手段」に対する異論が大半であり、目的自体を否定するものではありません。したがって、新発田市が時間をかけて個別の反対意見を解消した手法も有効ですが、本町においては、「多数の町民が望む将来の町の教育の実現」を最優先すべきです。もちろん、反対意見を単に無視して強行すべきではありません。反対意見を「計画をより堅固にするための参考情報」として扱い、以下のような「合理的な説明」を尽くしながら、計画を推し進めていくことが、将来の町づくりを見据えた行政の判断として適切であると考えます。

- ① 中央公園の代替えとなる「新しい憩いの場」の創出を明確に提示する。
- ② 既存校の長寿命化よりも、新設による教育的メリット（新しい学習様式への対応、通学の安全性の向上など）が町にもたらす長期的な便益を、財政負担増を上回る形で具体的に説明する。
- ③ 既存校の跡地活用計画を早期に策定し、「町の負の遺産」とならない明確なビジョンを示す。

新発田市の事例から、粘り強い情報発信と地域を巻き込む姿勢は学びつつも、本町の教育の未来のため、多数の町民の意見を背景に新設中学校計画を力強く推進すべきであると改めて確信しました。

視察目的ではありませんが2017年1月(8年前)に新設された庁舎は地上7階建て、地下1階。RC造+S造の免震構造。1階の半屋内のイベント広場とFM放送ブースがありました。各階に市民ラウンジがあり議場のある階でもフロアーに高校生が学習しており多目的に利用可能です。

2 日目(11 月 6 日)新潟県津南町…人口約 8,413 人、2025 年 2 月末時点)

新潟県津南町のスマート農業推進に関する報告と感想

高齢化による生産性低下と人手不足の深刻化という課題に対し、LPWA (Low Power Wide Area) ネットワークとロボットトラクター・センサーを活用したスマート農業の推進に取り組んでいる。

取り組みの概要

この取り組みは、農林水産省の補助事業「スマート農業実証プロジェクト」を活用し、「町の農業をデジタル技術で変革していく」ことを目指し、2020 年度から 2 年間で実証された。

1. 課題として高齢化率が 44.6%に達し、農作物の収穫量が低下し 鳥獣被害が深刻化。労働力確保や省力化といった課題の解決が急務。
2. 主な取り組み (魚沼中魚沼津南町地区) として
 - ① LPWA を活用した栽培環境の監視と効率化。
 - ② 自動走行農機 (ロボットトラクター、ラジコン草刈機) : 耕耘、施肥、除草、収穫など の省力化・効率化。
 - ③ LPWA センサー・カメラの設置 :
 - ④ ユリハウス (高品質のカサブランカなどを栽培) : 環境センサーによる温度、湿度、二酸化炭素濃度などのモニタリングと、水稻の自動給水装置。
 - ⑤ 水田 : 水位センサー、自動給水装置。
 - ⑥ ため池 : 水位センサー、静止画カメラ (遠隔監視) 。
 - ⑦ 鳥獣害対策 : 生体監視カメラ、罾と連携したセンサー。
3. 推進体制
町長、幹部職員、農林振興課、農協 (JA) 、NTT、地元企業と連携、外部の知見も取り入れながら推進されている。

成果と展望

1. 成果
 - ① 努力削減 : ロボットトラクターやラジコン草刈機導入による「労働時間の 35%削減」という目標に対し、一定程度の削減効果が確認された。
 - ② DX 推進機運の醸成 : 若手農家を中心にデジタル技術への関心が高まり、町独自の補助事業を利用してドローン操縦免許取得者が 40 人にのぼるなど、若手の DX 機運が高まった。
 - ③ 技術の実装判断 : 鳥獣被害対策について、当初の取り組みでは効果が実感できなかったため、実装を見送るという客観的な判断もプロジェクトの成果と

された。

2. 展望

- ① 農業からの多分野へのDX拡大
- ② 第1段階：DXの可能性とメリットを農家が実感し、推進環境を創る。
- ③ 第2段階：効果の実証と本格的なプロジェクトへの展開。
- ④ 第3段階：DXを推進・定着させ、生産性向上と収益拡大を実現し、LPWAを福祉、教育、観光など町のインフラとして活用する。

感想

新潟県津南町のスマート農業推進は、地方の深刻な課題に対する先進的かつ実践的なモデルケースとして今後の農業をDX化を学べました。農業で得られた知見とインフラを、福祉や教育など他分野へ展開する構想を含めて、以下に感想をまとめます。

他分野への展開（福祉・教育）への期待

- ①農業の基盤を土台とした福祉・教育分野への展開は、地域の生活の質（QoL）を飛躍的に向上させる可能性を秘めています。
- ②福祉：高齢者の見守りや安否確認を低コストで実現することは、「安心して暮らせる地域」の維持に直結します。
- ③教育：スマート農業のシステムは単なる技術の学習ではなく地域課題の解決や未来の産業を担う人材育成に繋がる、実践的な教育プログラムを可能にするのではないのでしょうか？

津南町の取り組みは、デジタル技術を「農作業の道具」としてではなく、「持続可能な地域社会を創るためのインフラ」として捉え、町全体で推進している点で、全国の過疎地域における地域DXモデルとして大いに注目に値します。

このインフラを活かし、今後、福祉や教育でどのような具体的な成果が生まれていくのか、引き続き関心を持って見守りたい事例です。

最後になりますが、今回の行政調査において事務局の竹崎さんには大変ご苦労かけました。視察先の調整や行程の段取りなど様々な変更を含み感謝いたします。また行程中の運転を委員長の中瀬議員にお願いして安全な視察を終えることが出来ました。併せて感謝申し上げます。